

第 2 学年 生活科学習指導案

児 童：旭川市立忠和小学校 2年3組 34名
たんぼぼ学級 2名
指 導 者：千葉重智

1 単元名「しぜんのふしぎさがそうよ」

2 単元について

(1) 単元設定の理由

本単元は、学習指導要領(5)の下線部を中心に構想したものである。

身近な自然を観察したり，季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりして，四季の変化や季節によって生活の様子が変わることに気付き，自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできるようにする。

学習指導要領内容の(5)

これまでの生活科において，子どもたちは自分を取り巻く多くの身近な「人・もの・こと」に触れてきた。『学校探検』『校庭探検』では校内や校庭の施設を知り，そこで友だちと遊んだり，昆虫などの動物や植物を観察したりしてきている。また，『地域探検』では，お店やそこで働く人々と触れ合ってきた。

本単元では，おのおのの興味や関心の中から「自然」を対象にしてそのおもしろさや不思議さを発見して，人に知らせていく活動を設定した。自然のおもしろさや不思議さに興味や関心をもち，細かなところまでよく見て観察しようとする態度や，そのちがいや特徴に気づく目を育てることがねらいである。普段何気なく見ているタンポポの葉の比較観察を通して，新たな発見をすることにより，くわしく観察しようとする態度が育つとともに，自然のおもしろさを味わうことができると考える。そこから子どもたちが自分なりの興味関心をもち，好奇心を十分に発揮し，こだわりをもって自然とかかわっていけると考える。また，その好奇心によって発見した不思議を人に伝えることで，人とかかわりをもたせていきたいと考え，この単元を設定した。

(2) 児童の実態

本学級の子どもたちは低学年らしく明るく，活動的な子が多い。小さなけんかもするが，男女を問わず仲が良く，優しい気持ちをもっている子が多い。学習に関しても意欲的で，特に体験活動や作業の多い生活科は楽しみにしているようで，友だちと協力しながら仲良く学習を進めている。反面，話を聞く態度が定着していない子が多い。

生き物に対しての優しい気持ちをもっている子が多く，学級園の植物や教室の金魚の世話も熱心に行っている。また，これまでにほとんどの子どもたちに金魚，カブトムシ，クワガタムシなどを飼育の経験があり，おおよその子は小動物が好きなようである。植物についても同様のことが言える。ただ，植物の観察では，細かな点までていねいな観察をする子は少なく，全体的には新しいことを発見する目はまだ十分には育っていない。

そこで，身近な自然の中にもよく見るとちがいがあつたり，不思議があつたりするという経験から，新しいことを発見する楽しさや自然のおもしろさを味わわせていきたいと考える。本単元の活動から，動植物をじっくりと観察する子どもの姿が見られたり，「公園で黒いチョウを見つけたよ。」「変わった形の葉っぱを見つけたよ。何の葉っぱか知っている？」といったような声が子どもから聞かれたりすることを期待したい。

(3) 単元構成の工夫

活動構成の工夫

本単元では、身近な自然をよく見て観察しようとする態度を育てることが一番のねらいである。このことにより、自然のおもしろさや不思議さへの興味や関心が高まると考える。

第1次では、まずタンポポを使って遊び、その後タンポポの葉を比較観察する。そこから身近な自然の中でもよく見て観察するとちがいや新しい発見があることに気づき、くわしく観察していこうとする態度が育つと考える。

子どもたちは本単元学習前に、国語で説明文『たんぽぽ』を学習している。また、実態調査の結果から、子どもたちが身の回りにある植物として一番多く挙げられていたのがタンポポであった。したがって、タンポポは子どもたちにとって身近で、割とよく知っている植物であると言える。そのため、ねらいを達成させるにあたって、最適な教材であると考え、導入で取りあげることとした。

第2次では、探検で見つけた不思議について調べて自然のクイズを作り、自然のクイズ大会を行う。この活動を通して気づきの共有化を図ることにより、友だちの見た新たな不思議を知り、また調べてみたいという意欲的な態度が育つとともに、より自然のおもしろさ・不思議さに興味や関心をもつことができると考えた。

環境構成の工夫

忠和は公園が多い地区ではあるが、環境整備がよいため、逆に虫などは見つけにくい。他にも活動場所を考えたが、繰り返し足を運んで観察したり、活動したりする場所としては交通面、安全面ともにあまり適したところがないと判断したため、校庭などの学校敷地内を活動場所の中心とする。校地内には様々な樹木があり、校舎裏には学年菜園の他にも草花があり、チョウなどの虫も見られる。また、いつでも観察でき、子どもたちが休み時間等に自主的に活動することができるので、不思議探しの際には、繰り返し観察できる場所として活用したい。

教室には、随時学習の流れを示した掲示物を用意し、学習の振り返りをしながら自然とのかかわりに興味や関心もてるようにしていきたい。また、国語『タンポポ』の学習を生かした掲示の工夫も取り入れ、気づきの目を育てるための意欲喚起を図りたい。

3 単元の目標

身近な自然への気づきの幅を広げ、よく見て観察しようとする意欲を高め、身近な自然について調べたり、気づいたことを人に知らせる活動を通して、季節の変化や生き物のおもしろさ、不思議さに興味や関心もてるようにする。

4 評価規準

生活への関心・意欲・態度

- ・季節や生き物の様子や自然の不思議に関心をもっている。
- ・身の回りの自然の様子について意欲的に発表しようとしている。
- ・自然の不思議探しに興味をもち、計画を立てたり、準備をしたりしている。

活動や体験についての思考・判断

- ・自然の不思議探しに興味をもったことを自分なりの方法で調べることができる。
- ・自然の不思議探しで気づいたことをクイズによって表現することができる。

身近な環境や自分についての気づき

- ・比較したり、調べたりすることを通して、動植物のちがいや特徴に気づくことができる。
- ・季節や生き物の様子や自然の不思議に気づくことができる。

5 単元構成

単元の時間配当（14時間扱い）

第1次「自然の不思議を探そう」

- ・タンポポや草花であそぼう・・・・・・・・・・2時間
- ・タンポポの葉のちがいをを見つけよう・・・・・・・・1時間（本時）
- ・タンポポ探しに出かけよう・・・・・・・・・・2時間

第2次「自然のクイズ大会をしよう」

- ・不思議探しの計画を立てよう・・・・・・・・・・1時間
- ・不思議を探しに行こう・・・・・・・・・・3時間
- ・自然のクイズをつくろう・・・・・・・・・・2時間
- ・自然のクイズ大会をしよう・・・・・・・・・・2時間
- ・生き物のなぞなぞをやってみよう・・・・・・・・1時間

6 活動構成

| | | | |
|------------------------|---------------------------------|--------------------------|-----------------------|
| 第1次 自然の不思議を探そう | 第1～2時 タンポポや草花であそぼう | タンポポであそぼう | いろいろ遊べて楽しいね。 |
| | 何してあそぼうかな。 | タンポポはおもしろいな。 | |
| | 第3時 タンポポの葉のちがいを 見つけよう(本時) | 葉をよく見てみよう | よく見たら違うところがあるんだね。 |
| | どこが違うかな。 | ぼくの葉はギザギザの形だよ。 | |
| 第2次 自然のクイズ大会をしよう | 第4～5時 タンポポ探しに出かけよう | タンポポを探そう | 葉だけじゃなくて、他にも違いがあるんだね。 |
| | 変わった葉はないかな。 | 普段からよく見てみよう。 | |
| | 第6時 不思議探しの計画を立てよう | 計画を立てよう | 何を持って行こう。 |
| | 色が変わったチョウを見つけたよ。 | 安全にも気をつけないといけな。 | |
| | どんな生き物を見つけれられるかな。 | | |
| | 第7～9時 不思議を探しに行こう | 不思議探し | くわしく知りたいな。 |
| | こういう理由だと思うな。 | みんなに不思議を伝えたいな。 | そんな不思議もあったんだ。 |
| | 第10～11時 自然のクイズをつくらう | 自然のクイズづくり | 問題の裏に答えをのせればわかりやすいね。 |
| | 図書室でも調べてみよう。 | みんなにクイズを出したいな。 | チョウの種類がわかったよ。 |
| | 第12～13時 自然のクイズ大会をしよう | 自然のクイズ大会 | みんなに聞こえる声で話そう。 |
| すごいな。おもしろいな。 | また不思議を探しに行きたいな。 | 自然の中には、たくさんさんの不思議があるんだね。 | |
| 第14時 自然のなぞなぞをやってみよう | 自然のなぞなぞ | もっともっと不思議を探したいな。 | |
| こんな不思議もあるんだね。 | 自然ってすごいな。これからもよく見て不思議を探そう。 | | |

7 本時の活動

(1) 本時の目標

- ・タンポポの葉を比べる活動を通して、自然のおもしろさや不思議さに興味や関心をもつ。
- ・タンポポの葉には様々な形があることに気づくことができる。

(2) 本時の展開 (3 / 1 4)

| 予想される子どもの活動 | 教師の支援()と評価()と方法(*) |
|--|---|
| <p>前時を想起する。 ・タンポポで遊んだよ。</p> <p>本時の学習について知る。</p> <p>友だちの葉と自分の葉を比べ、ちがいを見つける。 ・ギザギザしているよ。 ・先が丸いよ。 ・切れこみが大きいよ。</p> <p>葉の形に名前をつけ、観察した結果を発表する。</p> <p>植物博士の話を聞く。</p> <p>発見カードに気づいたこと、わかったこと、感想をまとめる。</p> <p>次時予告を聞く。</p> | <p>前時を想起させる。</p> <p>タンポポの絵を用いながら、葉の形に注目できるようにする。</p> <p>事前に1人1枚、校庭からタンポポの葉を取らせておく。 向かいの子や班の子の葉と形を比べさせる。 種別としてタンポポではない、ブタナなどの、タンポポと似ているものも本時では許容する。(以後の学習活動の中で触れていく。)</p> <p>形の違いをもとに子どもたちの発想で名前をつけさせる。</p> <p>子どもたちの活動や気づきを褒めてもらいながら、タンポポを中心に植物の話をゲストティーチャーから話していただく。</p> <p>発見カードに記入できない子に対して記入の支援をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>タンポポの葉を比べる活動を通して、自然のおもしろさや不思議さに興味や関心をもったか。 (関心・意欲・態度) * 発言と発見カード タンポポの葉には様々な形があることに気づくことができたか。 (気づき) * 発言と発見カード</p> </div> <p>次時の学習予告をする。</p> |